



Keep Innovating

「先端技術」と「オフショア開発」で
あなたのアイデアを素晴らしい現実に

2019年2月26日
株式会社カオピーズ



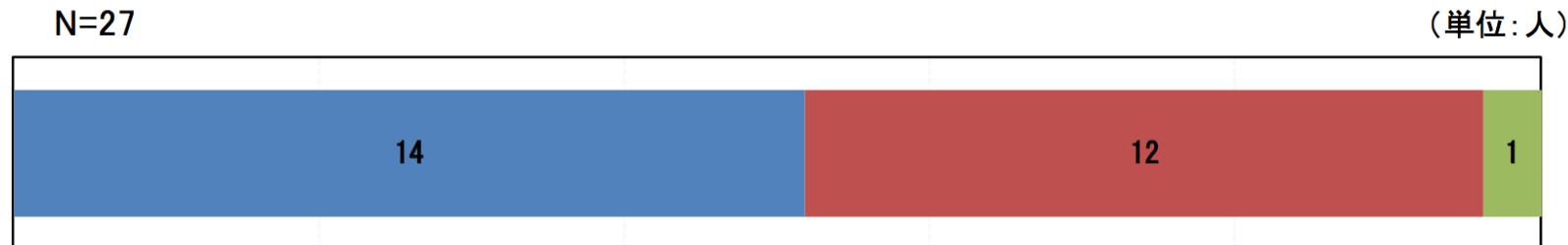
カオピーズです

- ❖ ベトナム ハノイにある
オフショア開発会社です。
- ❖ 日本企業様のために
日本法人を設立しました。
- ❖ 従業員は約120人。
- ❖ AIやBCを開発するエンジニア
が20人ほどいます。
- ❖ すでに、AIシステムを使った
自社開発システムがあります。



AIをうまく活用していますか？

❖ AIへの期待は大きい。

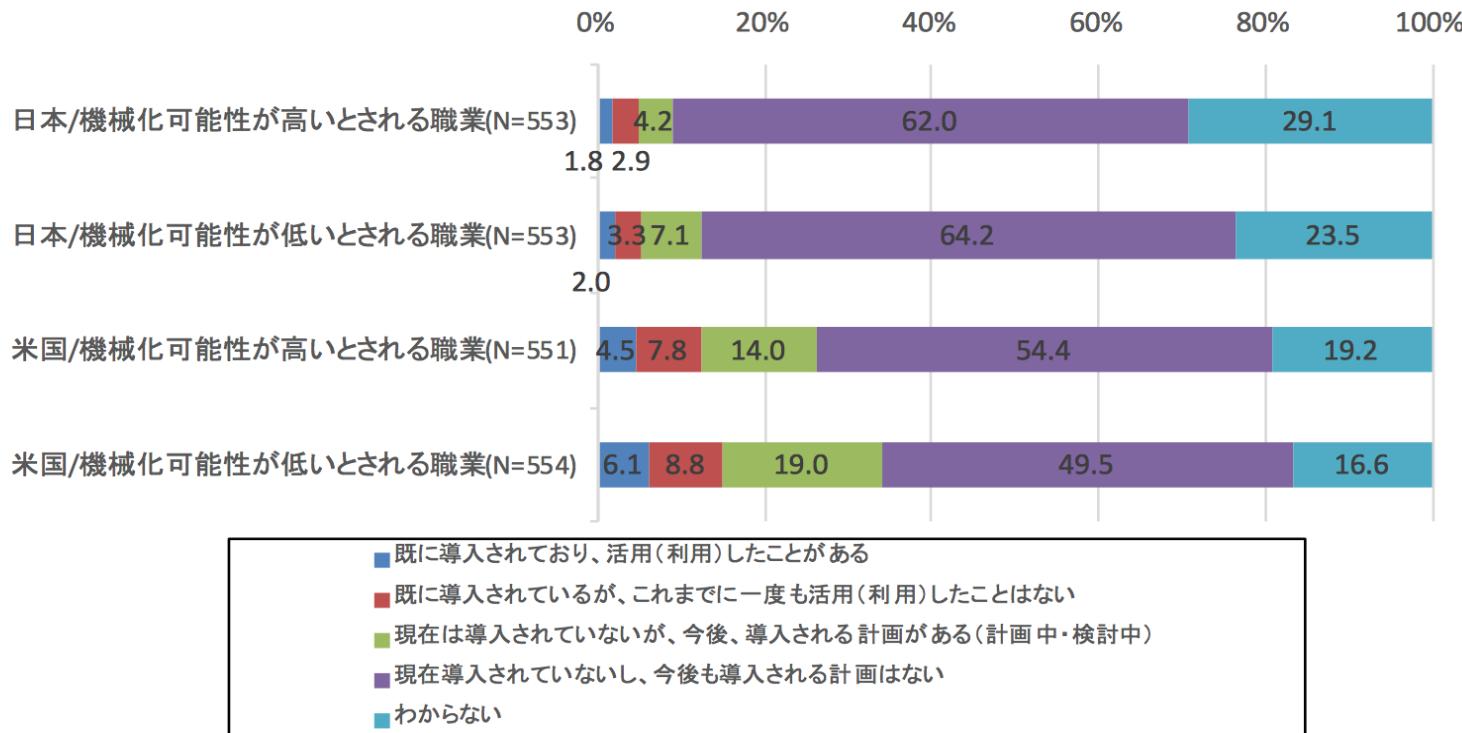


■かなり役に立つと思う ■ある程度役に立つと思う ■ほとんど役に立たないと思う ■全く役に立たないと思う

(出典) 総務省「ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」(平成27年度)

AIをうまく活用していますか？

❖ AIはあまり使われていません。



(出典) 総務省「ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」(平成27年度)

なぜAIはあまり活用されていないのでしょうか？

- ① 利用する方法が分からない
- ② どのように開発すればよいかわからない
- ③ AIを活用できるエンジニアがいない
- ④ AIのエンジニアは高価
- ⑤ AIを使うと本当にうまくいくのか疑問だ
- ⑥ AIは完全ではない(100%の精度はでない)

弊社の具体的な開発事例

❖ ディープラーニングの開発事例

① 名刺管理システム

- ・ 名刺をスマホなどで撮影すると氏名、
- ・ 会社名、所属部署、役職、住所などのデータをデータベースにする。
- ・ およそ4000枚の名刺を学習
- ・ 特長は書式にこだわらない書類の文字認識ができる。 例えば、運転免許証などの読み込みができる。

弊社の具体的な開発事例

❖ 名刺読み取りシステムで苦労した点

- 部署名が2行になると正確に読めなかつた。
- 地方公共団体の方の組織名と住所を混同した。
 - 例えば、東京都の職員の方は組織名も東京都、住所も東京都で始まる。従って、組織名の東京都を学習させるのに苦労した。
- 線などがデザインされている名刺の正確な読み込み
- 縦書きが読めなかつた

デモンストレーション



弊社の具体的な開発事例

② 顔認証システム

- 顔を認証し、あらかじめ登録した人物を特定する。
 - ✓ ハノイ事務所の入退室管理に用いている
 - 顔を認識し、年齢、性別を推定する。
 - ✓ コマーシャルの切替
 - ✓ 入退室人数を、時間ごとに年代別、性別を区別してカウントする。
- 約10,000人のデータで学習させた。

デモンストレーション



ディープラーニングをうまく実現するためには ～開発のコツ～

- ❖ 正否がわかっているデータが必要
 - もしデータが少なければ、ダミーデータを作る。
- ❖ 学習期間が必要
- ❖ できれば運用後も学習を継続させる。

どういう業務がAI活用に適しているか？

① 多くの人手を必要とする業務

- ✓ 入力作業
- ✓ 検査作業

② 二重に手間がかかる業務

- ✓ 確認、レビュー作業

③ 人手がかかるために今まで行われていなかった業務

- ✓ 顧客分析
- ✓ 動態調査

あなたの素晴らしいアイデアを現実に

- ① 利用する方法が分からぬ
✓ まずは、ご相談ください
- ② どのように開発すればよいかわからぬ
✓ 一度ご相談ください。
- ③ AIを活用できるエンジニアがいない
✓ オフショアには、AIエンジニアが豊富にいます
- ④ AIのエンジニアは高価
✓ オフショア開発なら安価です
- ⑤ AIを使うと本当にうまくいくのか疑問だ
✓ まずは身近なところから試してみましょう。開発期間は必要ですが、思いがけない成果が出ます。
- ⑥ AIは完全ではない(100%の精度はでない)
✓ カオピーズは常に最新技術を活用し、進化させていきます。

ご清聴頂きまして
誠にありがとうございました。